

平成30年度 財政状況資料集

総括表（都道府県）

都道府県名	香川県	職員の状況				区分		平成30年度(千円)		平成29年度(千円)		区分		平成30年度(千円・%)		平成29年度(千円・%)	
		区分	定数	1人あたり平均 給料月額(百円)		歳入総額	歳出総額	443,508,674	460,728,318	実質収支比率	1.7	2.0					
グループ	C	知事	1	12,850		歳入歳出差引	10,417,832	9,324,691	(※1)	(104.9)	(105.6)						
人口	27年国調(人)	976,263	副知事	1	9,800		翌年度に繰越すべき財源	6,058,935	4,232,954	標準財政規模	259,125,194	259,165,008					
	22年国調(人)	995,842	教育長	1	8,100		実質収支	4,358,897	5,091,737	財政力指数	0.48957	0.48738					
住民基本台帳人口 (※8)	うち日本人(人)	974,869	議会議長	1	9,400		単年度収支	-732,840	-1,037,236	公債費負担比率	19.7	20.0					
	うち日本人(人)	981,673	議会副議長	1	8,500		積立金	2,497,917	3,023,784	健全化判断比率							
面積(km ²)	増減率(%)	-2.0	議会議員	39	8,000		繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-					
	人口密度(人/km ²)	526	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	積立金取崩し額	6,764,613	2,008,688	連結実質赤字比率	-	-					
世帯数(世帯)	398,351	一般職員等(※5)	一般職員	3,723	12,166,764	3,268	実質単年度収支	-4,999,536	-22,140	実質公債費比率	10.0	10.3					
			うち消防職員	-	-	-	基準財政収入額	104,393,895	103,201,372	将来負担比率	199.2	197.0					
			うち技能労務職員	14	44,002	3,143	基準財政需要額	211,409,553	210,934,200	資金不足比率(※4)							
			警察官	1,863	5,970,915	3,205	標準財政収入額等	130,985,429	129,545,143								
			教育公務員	7,476	27,282,897	3,649	經常経費充当一般財源等	250,514,667	250,973,093								
			臨時職員	-	-	-	歳入一般財源等	303,349,319	300,597,100								
			合計	13,062	45,420,576	3,477	地方債現在高	868,659,467	868,469,629								
			ラスパイレス指数			98.4	うち公的資金	216,876,634	223,226,308								
							債務負担行為額(支出予定額)	37,251,597	56,788,067								
							収益事業収入	2,241,205	2,213,752								
							定額運用基金	-	-								
							土地開発基金	-	-								
							財政調整基金	12,592,354	16,859,050								
							積立金	19,901,242	20,222,335								
							現在高	21,806,335	21,216,446								
							その他特定目的基金										

一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法通)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非通)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 団体名		
(1)	一般会計	(11)	駐車場事業特別会計	(13)	香川県立病院事業会計	(14)	流城下水道事業特別会計	(18)	香川県広域水道企業団(水道事業会計)	(20)	公益財団法人 香川県環境保全公社
(2)	母子父子寡婦福祉資金特別会計	(12)	国民健康保険事業特別会計			(15)	臨海工業地帯造成事業特別会計	(19)	香川県広域水道企業団(工業用水道事業会計)	(21)	公益財団法人 香川県下水道公社
(3)	就業支援資金特別会計					(16)	香の州地区臨海工業用地造成事業特別会計			(22)	公益財団法人 香川県児童・青少年健全育成事業団
(4)	中小企業高度化資金特別会計					(17)	内陸工業団地造成事業特別会計			(23)	公益財団法人 明治百年記念香川県青少年基金
(5)	集中管理特別会計									(24)	公益財団法人 香川県水産振興基金
(6)	証紙特別会計									(25)	公益財団法人 かがわ水と緑の財団
(7)	果林公園特別会計									(26)	公益財団法人 瀬戸大橋記念公園管理協会
(8)	吉野川総合開発香川用水建設事業特別会計									(27)	公益財団法人 置県百年記念香川県文化芸術振興財団
(9)	林業・木材産業改善資金特別会計									(28)	公益財団法人 香川県国際交流協会
(10)	沿岸漁業改善資金特別会計									(29)	公益財団法人 香川いのちのりレー財団

(注釈) ※1: 經常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり平均給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※6: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(都道府県)

歳入の状況(単位:千円・%)				道府県税の状況(単位:千円・%)			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入金額	構成比
地方税	135,053,253	30.5	112,600,672	47.2	普通税	135,048,658	100.0
地方譲与税	17,774,798	4.0	17,774,798	7.4	法定普通税	135,048,658	100.0
地方揮発油譲与税	1,554,373	0.4	1,554,373	0.7	道府県民税	40,103,856	29.7
地方道路譲与税	-	-	-	-	個人均等割	132,300	0.5
特別とん譲与税	-	-	-	-	所得割	31,407,532	23.3
石油ガス譲与税	72,378	0.0	72,378	0.0	法人均等割	1,673,174	1.2
航空機燃料譲与税	9,141	0.0	9,141	0.0	法人税割	3,676,713	2.7
地方法人特別譲与税	16,138,906	3.6	16,138,906	6.8	利子割	554,653	0.4
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	配当割	1,182,536	0.9
地方特例交付金	409,354	0.1	409,354	0.2	株式等譲渡所得割	876,948	0.6
地方交付税	109,275,729	24.6	107,015,658	44.8	事業税	28,809,889	21.2
普通交付税	107,015,658	24.1	107,015,658	44.8	個人分	897,551	0.7
普通交付税	2,251,543	0.5	-	-	法人分	27,712,338	20.5
震災復興特別交付税	8,528	0.0	-	-	地方消費税	38,273,776	28.3
(一般財源計)	262,513,134	59.2	237,800,482	99.6	不動産取得税	2,438,876	1.8
交通安全対策特別交付金	332,964	0.1	332,964	0.1	道府県たばこ税	1,038,906	0.8
分担金・負担金	2,681,929	0.6	-	-	ゴルフ場利用税	334,548	0.2
徴収金	4,905,619	1.1	71,031	0.0	自動車取得税	1,424,209	1.1
手数料	1,597,434	0.4	351,952	0.1	軽油引取税	9,667,564	7.2
国庫支出金	44,813,581	10.1	-	-	自動車税	13,157,022	9.7
国有提供交付金	-	-	-	-	鉱区税	12	0.0
財産収入	855,941	0.2	123,659	0.1	固定資産税特例	-	-
寄附金	96,087	0.0	-	-	法定外普通税	-	-
繰入金	12,203,132	2.8	-	-	目的税	4,595	0.0
繰越金	9,324,691	2.1	-	-	法定目的税	4,595	0.0
諸収入	50,217,102	11.3	49,494	0.0	狩猟税	4,595	0.0
地方債	53,967,000	12.2	-	-	法定外目的税	-	-
うち繰越補填債(特例分)	-	-	-	-	旧法による税	-	-
うち臨時財政対策債	21,100,000	4.8	-	-	合計	135,053,253	100.0
歳入合計	443,508,674	100.0	238,729,582	100.0			

区分	合計	平成30年度	平成29年度
徴収率(%)	99.5	98.8	99.4
道府県民税	99.0	97.1	99.0
事業税	99.9	99.7	99.9
国民健康保険	実質収支	1,529,623	-
事業会計の状況	再差引収支	1,529,623	-

(注釈) 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳入の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議事費	1,159,748	0.3	5,590	1,154,172
総務費	27,367,137	6.3	2,907,986	22,522,787
民生費	63,972,891	14.8	824,282	57,445,765
衛生費	20,514,444	4.7	2,175,287	10,609,318
労働費	1,165,322	0.3	1,811	682,531
農林水産業費	19,589,728	4.5	10,718,485	8,335,072
商工費	46,371,077	10.7	170,432	6,963,401
土木費	49,670,533	11.5	35,689,940	12,590,333
警察費	25,933,649	6.0	2,718,720	22,649,946
消防費	-	-	-	-
教育費	93,880,554	21.7	3,092,493	68,745,385
災害復旧費	1,552,834	0.4	-	253,861
公債費	60,246,463	13.9	-	59,693,161
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
利子割交付金	338,008	0.1	-	338,008
配当割交付金	705,263	0.2	-	705,263
株式等譲渡所得割交付金	520,599	0.1	-	520,599
分離課税所得割交付金	-	-	-	-
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-
地方消費税交付金	18,883,338	4.4	-	18,883,338
ゴルフ場利用税交付金	232,254	0.1	-	232,254
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	987,000	0.2	-	987,000
軽油引取税交付金	-	-	-	-
特別区財政調整交付金	-	-	-	-
歳出合計	433,090,842	100.0	58,305,026	293,342,194

性別別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	194,425,435	44.9	169,448,395	168,454,289	64.8
人件費	124,322,449	28.7	104,543,670	103,548,564	39.9
うち職員給	90,074,533	20.8	73,465,188	73,449,953	28.3
扶助費	9,926,900	2.3	5,282,941	5,282,941	2.0
公債費	60,176,086	13.9	59,622,784	59,622,784	22.9
元利償還金	60,172,300	13.9	59,618,998	59,618,998	22.9
内 うち元金	53,777,062	12.4	53,224,216	53,224,216	20.5
訳 うち利子	6,395,238	1.5	6,394,782	6,394,782	2.5
一時借入金利子	3,786	0.0	3,786	3,786	0.0
その他の経費	178,807,547	41.3	117,488,761	82,060,378	31.6
物件費	20,153,590	4.7	12,885,280	12,270,364	4.7
維持補修費	7,071,931	1.6	5,187,081	5,187,081	2.0
補助費等	93,959,432	21.7	84,054,952	58,806,023	22.6
繰出金	7,076,319	1.6	7,026,021	5,677,471	2.2
積立金	7,813,218	1.8	6,529,621	-	-
投資及び貸付金	2,910,199	0.6	1,614,394	-	-
貸付金	39,922,858	9.2	191,412	119,439	0.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	59,857,860	13.8	6,404,038	-	-
うち人件費	1,078,921	0.2	105,131	-	-
普通建設事業費	58,305,026	13.5	6,150,177	-	-
うち補助	35,110,612	8.1	1,453,445	-	-
うち単独	20,227,359	4.7	4,359,253	-	-
災害復旧事業費	1,552,834	0.4	253,861	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	433,090,842	100.0	293,342,194	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

平成30年度 香川県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	467,983	458,064	9,918	4,180	11,917	856,174	
2 母子父子寡寡福祉資金特別会計	119	45	74	-	5	274	
3 就農支援資金特別会計	146	146	-	-	0	24	
4 中小企業高度化資金特別会計	217	197	20	-	-	12,462	
5 集中管理特別会計	95,696	95,686	10	10	73	-	
6 証紙特別会計	3,663	3,495	168	168	-	-	
7 森林公園特別会計	325	325	-	-	68	-	
8 吉野川総合開発香川用水建設事業特別会計	1,640	1,640	-	-	908	-	
9 林業・木材産業改善資金特別会計	64	-	64	-	0	-	
10 沿岸漁業改善資金特別会計	170	7	163	-	0	-	
11 県立大学特別会計	840	840	-	-	603	-	
12 奨学資金特別会計	539	538	1	1	199	-	
13 県債管理特別会計	112,528	112,528	-	-	59,962	-	
14 実質赤字額							
15 14-13							
16 15-14							
17 16-15							
18 17-16							
19 18-17							
20 19-18							
21 20-19							
22 21-20							
23 22-21							
24 23-22							
25 24-23							
26 25-24							
27 26-25							
28 27-26							
29 28-27							
30 29-28							
31 30-29							
32 31-30							
33 32-31							
34 33-32							
35 34-33							
36 35-34							
37 36-35							
38 37-36							
39 38-37							
40 39-38							
41 40-39							
42 41-40							
43 42-41							
44 43-42							
45 44-43							
46 45-44							
47 46-45							
48 47-46							
49 48-47							
50 49-48							
51 50-49							
52 51-50							
53 52-51							
54 53-52							
55 54-53							
56 55-54							
57 56-55							
58 57-56							
59 58-57							
60 59-58							
61 60-59							
62 61-60							
63 62-61							
64 63-62							
65 64-63							
66 65-64							
67 66-65							
68 67-66							
69 68-67							
70 69-68							
71 70-69							
72 71-70							
73 72-71							
74 73-72							
75 74-73							
76 75-74							
77 76-75							
78 77-76							
79 78-77							
80 79-78							
81 80-79							
82 81-80							
83 82-81							
84 83-82							
85 84-83							
86 85-84							
87 86-85							
88 87-86							
89 88-87							
90 89-88							
91 90-89							
92 91-90							
93 92-91							
94 93-92							
95 94-93							
96 95-94							
97 96-95							
98 97-96							
99 98-97							
100 99-98							
101 100-99							
102 101-100							
103 102-101							
104 103-102							
105 104-103							
106 105-104							
107 106-105							
108 107-106							
109 108-107							
110 109-108							
111 110-109							
112 111-110							
113 112-111							
114 113-112							
115 114-113							
116 115-114							
117 116-115							
118 117-116							
119 118-117							
120 119-118							
121 120-119							
122 121-120							
123 122-121							
124 123-122							
125 124-123							
126 125-124							
127 126-125							
128 127-126							
129 128-127							
130 129-128							
131 130-129							
132 131-130							
133 132-131							
134 133-132							
135 134-133							
136 135-134							
137 136-135							
138 137-136							
139 138-137							
140 139-138							
141 140-139							
142 141-140							
143 142-141							
144 143-142							
145 144-143							
146 145-144							
147 146-145							
148 147-146							
149 148-147							
150 149-148							
151 150-149							
152 151-150							
153 152-151							
154 153-152							
155 154-153							
156 155-154							
157 156-155							
158 157-156							
159 158-157							
160 159-158							
161 160-159							
162 161-160							
163 162-161							
164 163-162							
165 164-163							
166 165-164							
167 166-165							
168 167-166							
169 168-167							
170 169-168							
171 170-169							
172 171-170							
173 172-171							
174 173-172							
175 174-173							
176 175-174							
177 176-175							
178 177-176							
179 178-177							
180 179-178							
181 180-179							
182 181-180							
183 182-181							
184 183-182							
185 184-183							
186 185-184							
187 186-185							
188 187-186							
189 188-187							
190 189-188							
191 190-189							
192 191-190							
193 192-191							
194 193-192							
195 194-193							
196 195-194							
197 196-195							
198 197-196							
199 198-197							
200 199-198							
201 200-199							
202 201-200							
203 202-201							
204 203-202							
205 204-203							
206 205-204							

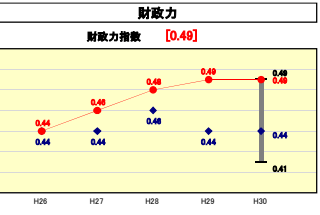
(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

人口	987,838	人(881.11倍)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	974,889	人(881.11倍)	実質公債費比率	10.0	%
面積	1,876.78	km ²	将来負担比率	199.2	%
歳入総額	448,008,674	千円	グループ	H26 C H27 C H28 C H29 C H30 C	
歳出総額	439,090,842	千円	(年度毎)	H29 C H30 C	
実質収支	4,358,897	千円			
標準財政規模	259,125,194	千円			
地方債残高	888,859,467	千円			



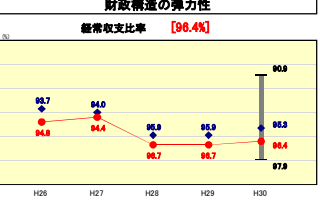
※ グループとは、道府県を財政力指数の数値によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1,000以上、Bグループ 0,500以上1,000未満、Cグループ 0,400以上0,500未満、Dグループ 0,300以上0,400未満、Eグループ 0,300未満]
 ※ 「人員費・物件費等の状況」の決算額は、人員費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人員費には専業費及び人件費を含み、退職金は含まない。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

平成30年度 香川県



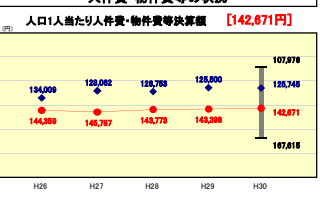
高年齢者給付率の分析

高齢者給付率等において専任費用の増等により基礎財政需要額が25年度に比べ増加しており、また、基礎財政収入額についても、個人消費の持ち直しによる地方消費増税の増や増給率等、個人所得の増による個人住民税所得割の増等により29年度に比べ増加した結果、単年度の財政力指数は2年連続で上昇しています(H24:0.43310、H25:0.44029、H26:0.45430、H27:0.46722、H28:0.48565、H29:0.48928、H30:0.49380)。
 今後も公債費が増加傾向にあることに加え、少子高齢化に伴う社会保障関連経費の増が見込まれていることから、総人件費の抑制(全国最小の「2,800人体制」の継続)や計画的な更新投資等を実施するとともに、香川県納税理機構の活用等による県税収入の確保及び県有未利用地の売却等、歳入確保に努めます。



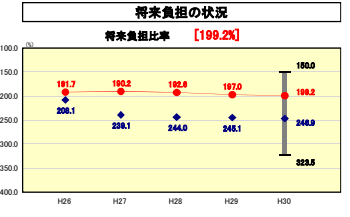
経常収支比率の分析

経常経費当一般財源は、平成29年度に続き、2年連続で減少しました(H26決:248,290,334千円、H27決:231,181,482千円、H28決:251,656,789千円、H29決:259,973,000千円、H30決:255,514,667千円)。一方、経常一般財源収入額及び臨時財政対策債の合計額が前年度から増加(H26決:262,012,402千円、H27決:265,968,939千円、H28決:280,266,746千円、H29決:259,562,806千円、H30決:259,839,562千円)したため、経常収支比率は20ポイント低下しました。
 今後も公債費が増加傾向にあることに加え、少子高齢化に伴う社会保障関連経費の増が見込まれていることから、総人件費の抑制(全国最小の「2,800人体制」の継続)や計画的な更新投資等を実施するとともに、香川県納税理機構の活用等による県税収入の確保及び県有未利用地の売却等、歳入確保に努めます。



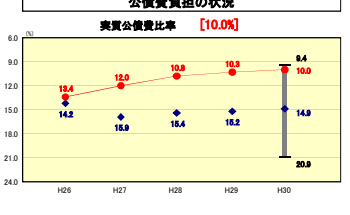
人口1人当たりの人員費・物件費等決算額の分析

人口1人当たりの人員費・物件費等決算額はグループ内平均を上回っています。
 人員費においては、同グループ同様に増加(H29決:114,305円、H30決:115,096円)となったものの、物件費においては、同グループは上がった一方で、本県は減少(H29決:21,642円、H30決:20,412円)したこと等により、グループ内平均値との差(H29決:17,896円、H30決:16,825円)が小さくなりました。



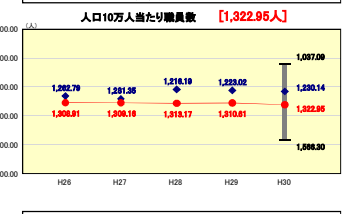
将来負担比率の分析

基礎財政需要額に算入される公債費の減等に伴い、充当可能財源等が約127億円減少したことなどにより、将来負担すべき実質的負債が約49億円増加した結果、将来負担比率は前年度比で上昇しました。
 財政運営指針に基づき、一般会計及び一般会計の臨時財政対策債を除く県債残高を減少させるとともに、元金プライマリーバランスの黒字化を図り、一般会計及び一般会計の県債残高の減少を目指します。



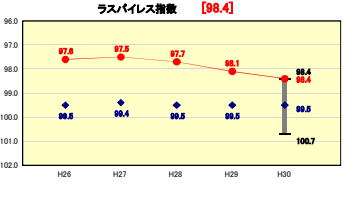
実質公債費比率の分析

元利償還金等から算入公債費等を控除した額は、今回算定対象外となったH27に比べ、元金償還金の減などにより、約25億円減少した結果、実質公債費比率は低下しました。
 財政運営指針に基づき、一般会計及び一般会計の臨時財政対策債を除く県債残高を減少させるとともに、元金プライマリーバランスの黒字化を図り、一般会計及び一般会計の県債残高の減少を目指します。



人口10万人当たり職員数の分析

従来より事務等を抜本的に見直しとともに、組織の見直しを行い、メリハリをつけた職員数の削減を行ってまいりました。
 特に知事府県においては、5次に亘って定員管理計画を策定し、平成10年度からの職員数削減により、平成10年度の職員数(3,674人)の約4分の1にあたる職員数を削減し、平成22年度に全国で最少な2,800人体制(2,778人)を達成しています。
 今後も、7月実施の行政改革で実現した2,800人体制を基本として、適正な定員管理と人員配置を行います。
 なお、人口10万人当たり職員数については、本県の人口が987,338人(31.11住民基本台帳人口と総数約少ないことから、財政力指数を同じくするグループや都道府県の平均に出して数値が案になっているものと思われます。



ラスパイレス指数の分析

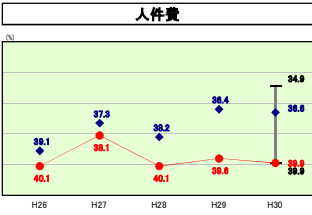
昇給及び昇格の厳格な運用により、ラスパイレス指数は国を下回っています。
 今後においても、本県職員の給与水準については、県人事委員会の勧告による地域民間準拠を基本に、適正なものとなるよう努めます。

(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

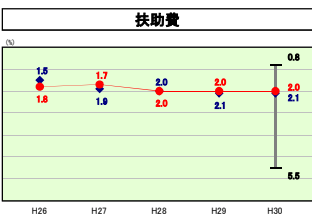
経常収支比率の分析

人口	867,336	人(931.1(1割増)	実収支比率	-	%	
うち日本人	974,869	人(931.1(1割増)	運輸賃率	-	%	
面積	1,876.78	km ²	実収支比率	10.0	%	
歳入総額	443,608,674	千円	将来負担比率	199.2	%	
歳出総額	433,090,842	千円	グループ別	H26 C	H27 C	H28 C
実収支	4,358,907	千円	(年度毎)	H29 C	H30 C	
標準財政規模	259,125,194	千円				
地方債残高	868,659,467	千円				

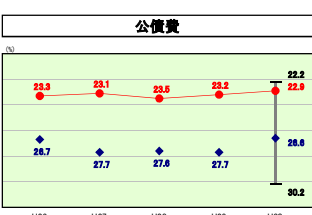
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって9つに分類したものである。
 { Aグループ 1,000以上、Bグループ 0,500以上1,000未満、Cグループ 0,400以上0,500未満、Dグループ 0,300以上0,400未満、Eグループ 0,300未満 }
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



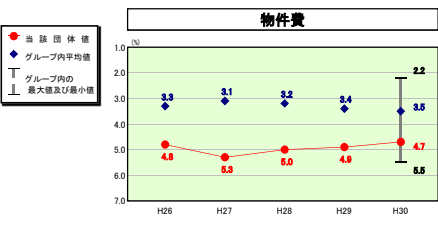
人件費の分析
 平成30年度決算については、経常一般財源及び臨時財政対策債等の合計額は地方債と税の増等により増加(+246,776千円)したものの、退職手当等の増等により、経常経費充当一般財源がそれ以上に増加(+742,439千円)したことで、経常収支比率は0.3ポイント増加しました。
 財政運営指針のとおり、定員数及び給与水準の適正な管理を通じて総人件費の抑制を図ります。



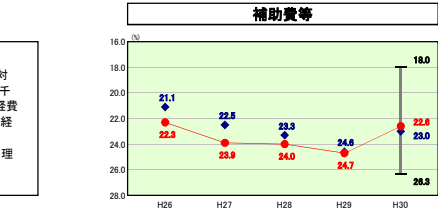
扶助費の分析
 平成30年度決算については、経常収支比率に変動はありませんでした。
 今後も社会保障関係経費の増加が見込まれますが、財政運営指針に沿って、収支均衡を図り、持続的な財政運営に努めます。



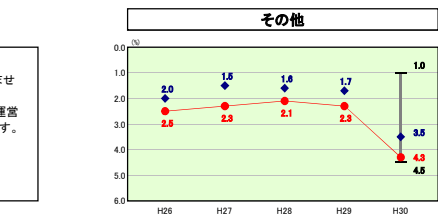
公債費の分析
 公債費における経常収支比率は類似団体の平均値を下回って推移しています。
 平成30年度は、利子償還金の減等により、公債費のうち経常的経費充当一般財源は対前年度より減少(▲477,533千円)したこと等に伴い、経常収支比率は0.3ポイント低下しました。
 財政運営指針に基づき、一般会計及び全会計の臨時財政対策債を除く県債残高を減少させるとともに、元金プライマリーバランスの黒字化を図り、一般会計及び全会計の県債残高の減少を目指します。



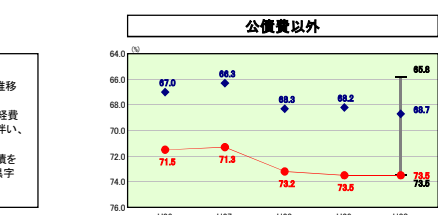
物件費の分析
 物件費における経常収支比率は、類似団体の平均値を上回っています。平成30年度決算において経常収支比率が0.2ポイント低下しましたが、豊島廃棄物等処理施設撤去等事業に要する経費の減少等に伴い、経常的経費充当一般財源の所要額が減少したこと(平成29年度と比較して▲567,640千円)等が影響していると考えられます。財政運営指針に基づき、事務事業の廃止・見直し、行政経費の削減などの撤出削減に取り組みを進めます。



補助費等の分析
 補助費等は、前年度に比べ、後期高齢者医療費などが増加する一方で、国民健康保険制度の改正に伴う国民健康保険助成費の減少等に伴い、経常的経費充当一般財源が増加(▲5,332,287千円)したこと等により、対前年度と比較して2.1ポイント低下したと考えられます。今後も社会保障関係経費の増加が見込まれますが、財政運営指針に沿って、収支均衡を図り、持続的な財政運営に努めます。



その他の分析
 その他(維持補償費、貸付金、繰入金)の経常収支比率が他の類似団体と比べて高いのは、経常的経費充当一般財源のうち維持補償費からなる割合が類似団体と異なり、大きいことが影響していると考えられます(維持補償費のうち経常的経費充当一般財源は次の通り)。H26: 8,373,203千円、H27: 8,097,424千円、H28: 5,231,284千円、H29: 5,610,690千円、H30: 5,187,681千円) 加えて、国民健康保険制度の改正により、国民健康保険事業特別会計への繰出金が増(430: 5,581,976千円)したことなどにより、経常収支比率は2.0ポイント上昇したと考えられます。
 毎年建物の中上土床施設等の劣化が進み、今後も多額の維持補償費用を要すると見込まれることから、これらの県有公共施設等の総合的な管理を推進し、財政負担の軽減と平準化を図っていきます。



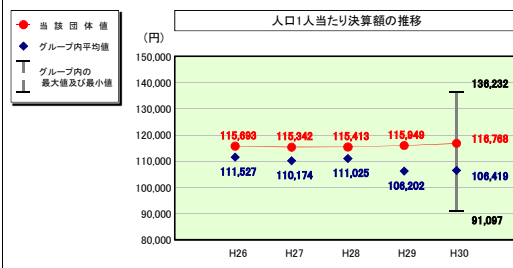
公債費以外の分析
 公債費を除く経常収支比率は、類似団体の平均値を毎年上回っていますが、主に人件費及び物件費の経常収支比率が類似団体の平均値を上回っていることが主な原因と考えられます。各欄記載の対策をそれぞれ行い、持続可能な財政運営を目指します。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

香川県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

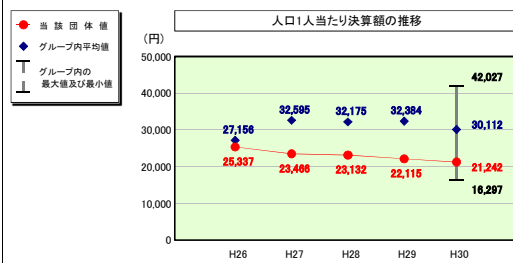
項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		対比(%)
		当該団体(円)	グループ内平均(円)	
人件費	124,322,449	125,917	113,415	11.0
賃金(物件費)	183,304	186	442	▲57.9
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	1,440,549	1,459	567	157.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	26,498	27	15	80.0
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	1,078,921	1,093	1,977	▲44.7
▲退職金	▲11,762,321	▲11,913	▲9,997	19.2
合計	115,289,395	116,768	106,419	9.7

参考

項目	当該団体	グループ内平均	対比(差引)
人口100,000人当たり職員数(人)	1,322.95	1,230.14	92.81
ラスパイレシス指数	98.4	99.5	▲1.1

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

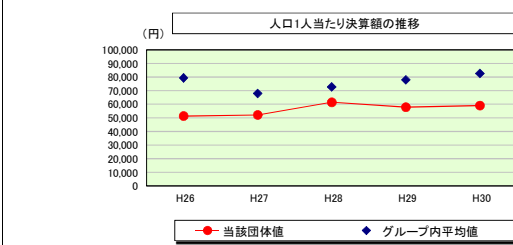
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		対比(%)
		当該団体(円)	グループ内平均(円)	
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	60,172,300	60,944	57,756	5.5
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	5,035	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	14,111	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,048,816	2,075	1,340	54.9
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	435,422	441	1,018	▲56.7
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの 一時借入金金利 (同一団体に於ける会計間の現金運用に係る金利は除く)	3,787	4	1	300.0
▲特定財源の額	▲553,302	▲560	▲2,288	▲75.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲41,134,384	▲41,662	▲46,930	▲11.2
合計	20,972,639	21,242	30,112	▲29.5

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

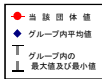
年度	うち単独分	当該団体決算額		人口1人当たり決算額		(A)-(B)	
		(千円)	増減率(%) (A)	当該団体(円)	増減率(%) (B)		
H26		51,599,567	7.1	51,314	79,311	5.2	▲12.3
H27		18,595,181	3.8	18,492	22,064	6.7	10.5
	うち単独分	52,266,295	1.6	52,153	17,951	▲14.3	19.9
H28		22,142,934	19.5	22,095	17,498	▲20.7	40.2
	うち単独分	61,330,418	17.9	61,465	72,635	6.9	11.0
H29		28,383,824	28.7	28,446	18,276	4.4	24.3
	うち単独分	57,487,162	5.8	57,880	77,936	7.3	▲13.1
H30		19,316,977	31.5	19,449	19,401	6.2	▲37.8
	うち単独分	58,305,026	2.0	59,053	82,531	5.9	▲3.9
過去5年間平均		20,227,359	5.3	20,487	19,102	▲1.5	6.8
	うち単独分	56,197,694	1.7	56,373	76,073	2.2	▲0.5
		21,733,235	5.1	21,794	19,268	▲3.7	8.8

(5) 都道府県性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成30年度

香川県

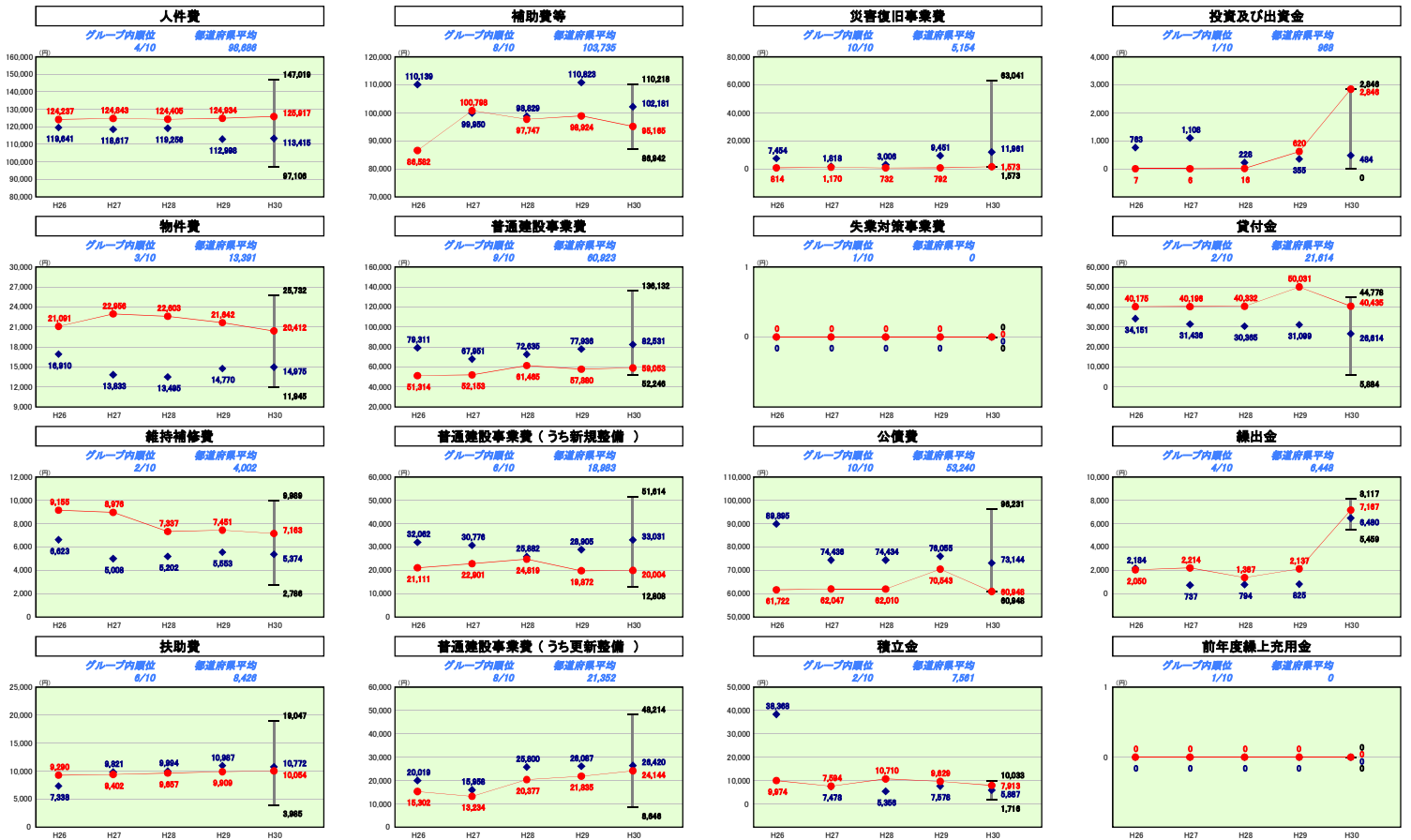
人口	987,336 人(031.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	974,869 人(031.1.1現在)	通称実質赤字比率	10.0 %
面積	1,876.78 km ²	実質公債費比率	199.2 %
歳入総額	443,508,674 千円	将来負担比率	- %
歳出総額	433,090,842 千円	グループ	H26 C H27 C H28 C
実質収支	4,359,867 千円	(年度毎)	H29 C H30 C
標準財政規模	259,125,194 千円		
地方債残高	888,658,467 千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高値によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

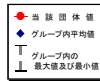
本表では、平成23年度から平成27年度までを対象期間とした「財政運営計画」や、平成28年度から令和2年度を対象期間とした「財政運営指針」に沿って、財政健全化に向けた取組みをいくつか、人口減少・活力向上対策をはじめ、各種施策に全力で取り組んでいるところです。
 人口一人当たりの決算額の推移については、主だった特徴を数点あげると次のとおりとなります。
 物件費については、類似団体の平均値を上回って推移しています。30年度決算額では前年度と比較して1,230円減少していますが、これは豊島廃棄物等処理施設撤去等事業の減少等によるものであると考えられます。
 補助費等については、国民健康保険制度の改正に伴う国民健康保険後援助成費の減少により、前年度に比べて3,759円減少しました。
 投資及び出資金については、香川県立病院事業会計への出資の増加等により、28年度に比べて、30年度決算額は2,220円増加しました。
 繰出金については、国民健康保険事業特別会計への繰出しの増等により、前年度に比べて3,030円増加しました。
 今後も、財政運営指針に沿って可能な限りの歳入確保や徹底した歳出抑制策に取り組めます。

(6) 都道府県目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成30年度

香川県

人口	987,336人(031.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	974,869人(031.1.1現在)	通称実質赤字比率	-%
面積	1,876.78km ²	実質公債費比率	10.0%
歳入総額	443,508,674千円	将来負担比率	199.2%
歳出総額	433,090,842千円	グループ	H26 C H27 C H28 C
実質収支	4,359,867千円	(年度毎)	H29 C H30 C
標準財政規模	259,125,194千円		
地方債償還高	888,658,467千円		



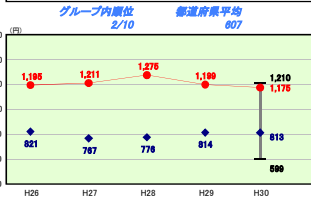
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。

[Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]

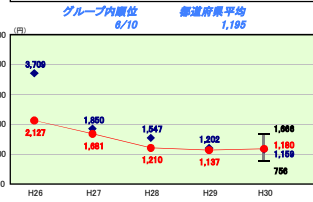
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。

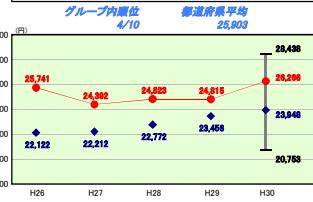
議会費



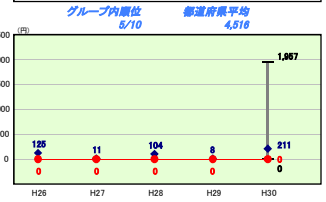
労働費



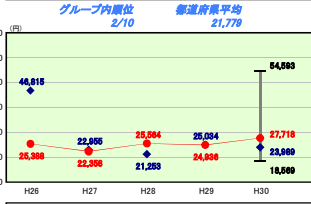
警察費



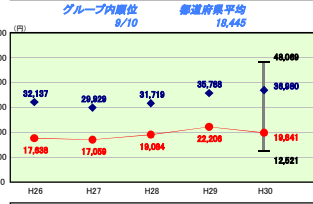
贈支出金



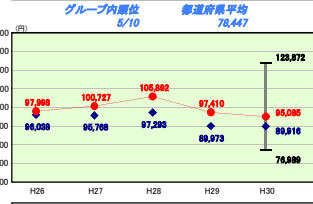
総務費



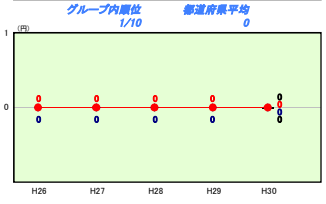
農林水産費



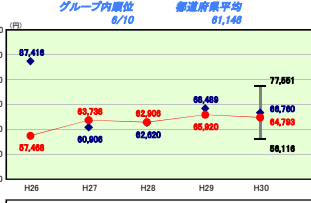
教育費



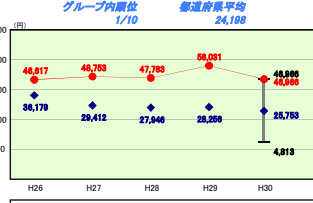
前年度繰上充用金



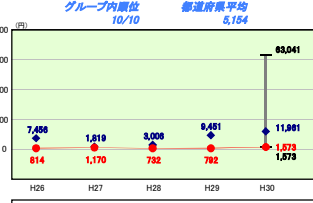
民生費



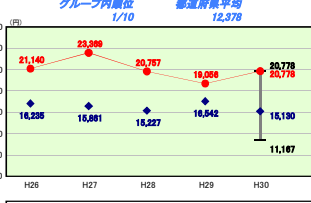
商工費



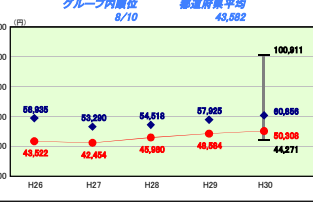
災害復旧費



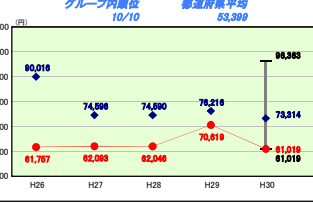
衛生費



土木費



公債費



目的別歳出の分析

本席では、平成23年度から平成27年度までを対象期間とした「財政運営計画」や、平成28年度から令和2年度を対象期間とした「財政運営指針」に沿って、財政健全化に向けた取組みを行いつつ、人口減少・活力向上対策をはじめ、各種施策に全力で取り組んでいるところです。

人口1人当たりの決算額の推移について、主だった特徴を数点あげると次のとおりとなります。

土木費は、香東川総合開発事業(桜川ダム)や道路整備交付金事業の増加等により、前年度より人口1人当たりの決算額が1,724円増加しております。

警察費は、三重警察署整備事業の増加等により、前年度より人口1人当たりの決算額が1,451円増加しております。

総務費は、県庁業務前年度改善事業の増加等により、前年度より人口1人当たりの決算額が2,782円増加しております。

商工費は、中核的中小企業応援ファンドの募金等のため貸付の返還等により、前年度より人口1人当たりの決算額が9,065円減少しております。

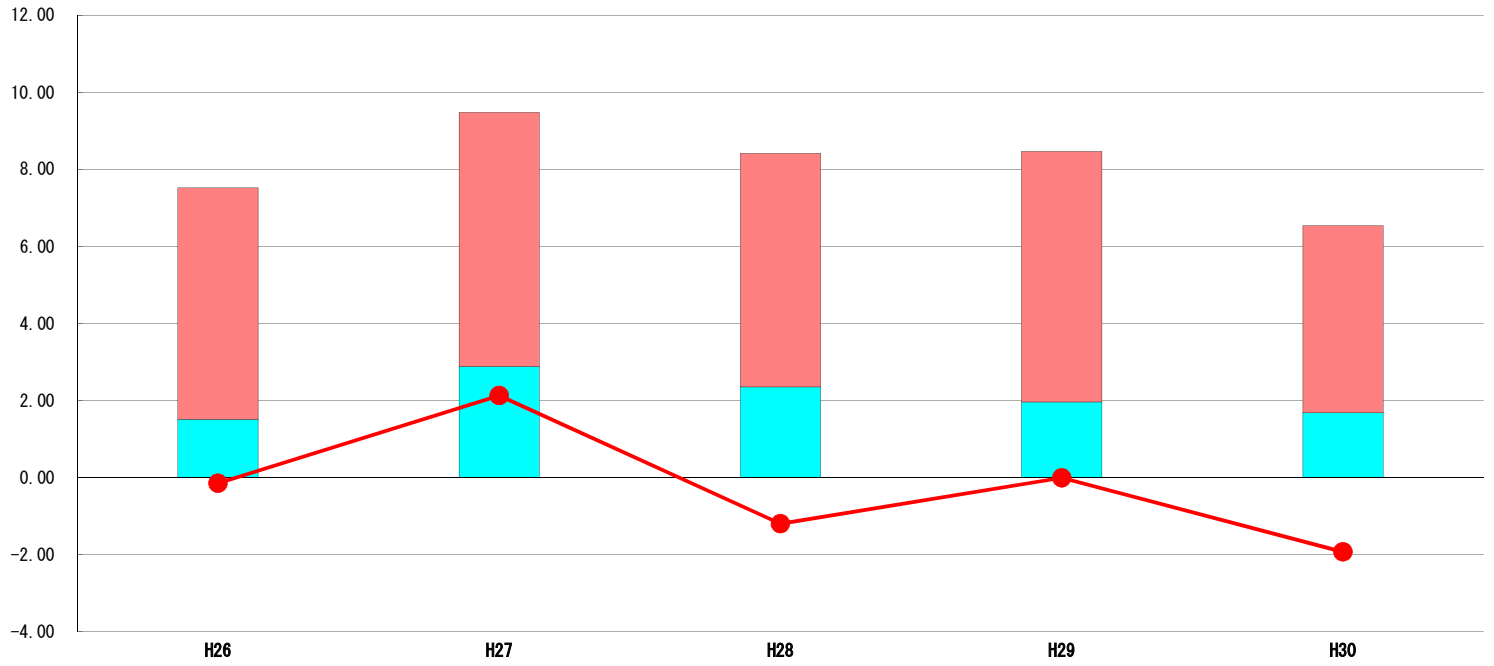
今後も、財政運営指針に沿って、可能な限りの歳入確保や歳出抑制策に取り組めます。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析 (都道府県)

平成30年度

香川県

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30
財政調整基金残高		6.01	6.60	6.07	6.51	4.86
実質収支額		1.51	2.88	2.35	1.96	1.68
実質単年度収支		▲ 0.15	2.13	▲ 1.20	▲ 0.01	▲ 1.93

分析欄

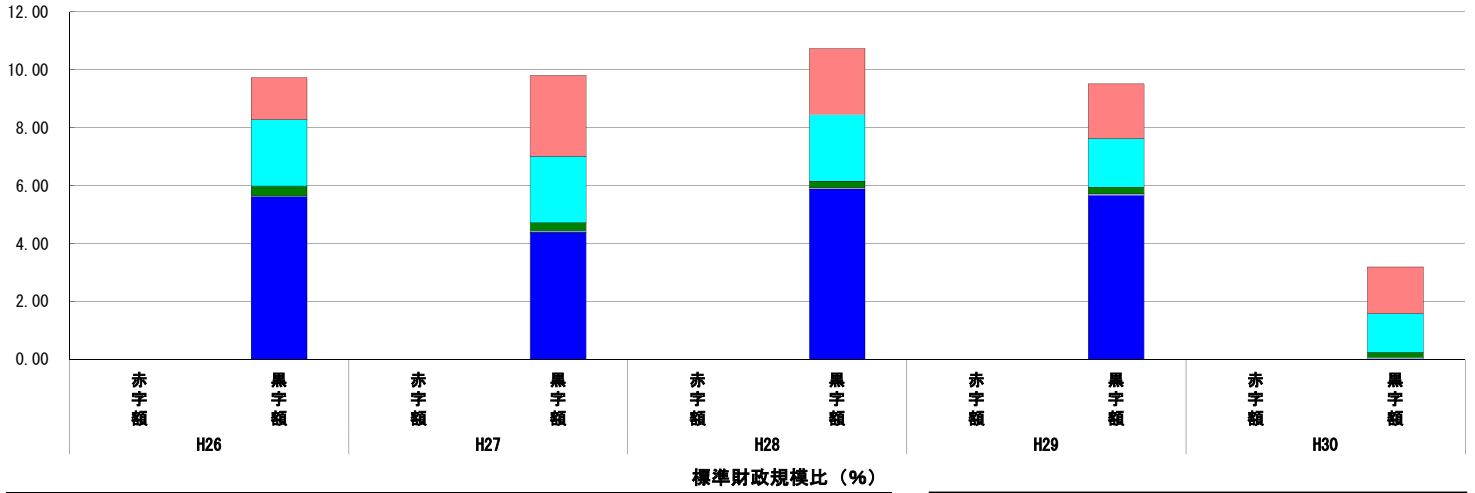
実質単年度収支が平成26年度、28年度、29年度及び30年度でマイナス (H26 : ▲395,569千円、H27 : 5,646,585千円、H28 : ▲3,122,627千円、H29 : ▲22,140千円、H30 : ▲4,999,536千円) となった要因は、当該年度の一般財源総額不足等によるものです。
 財政調整基金は、災害対策、景気変動による収支等の減、地方交付税の減等の備えとして積み立てているものですが、平成26年度以降2,962百万円減少しています。
 なお、本県では、財政調整基金のほか、減債基金を財源対策用基金として管理しており、その合計額は平成26年度以降7,664百万円減少する一方、県債残高は868,659百万円となっているところです。
 今後も財政運営指針に沿って、収支均衡を図り、持続的な財政運営に努めます。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

平成30年度

香川県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H26	H27	H28	H29	H30
一般会計		1.44	2.80	2.29	1.89	1.61
香川県立病院事業会計		2.30	2.28	2.29	1.68	1.34
番の州地区臨海工業用土地造成事業特別会計		0.33	0.29	0.23	0.23	0.19
証紙特別会計		0.04	0.04	0.05	0.06	0.06
流域下水道事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
集中管理特別会計		0.00	0.01	0.00	0.00	0.00
奨学金特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
母子父子寡婦福祉資金特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		5.62	4.39	5.88	5.66	0.00

分析欄

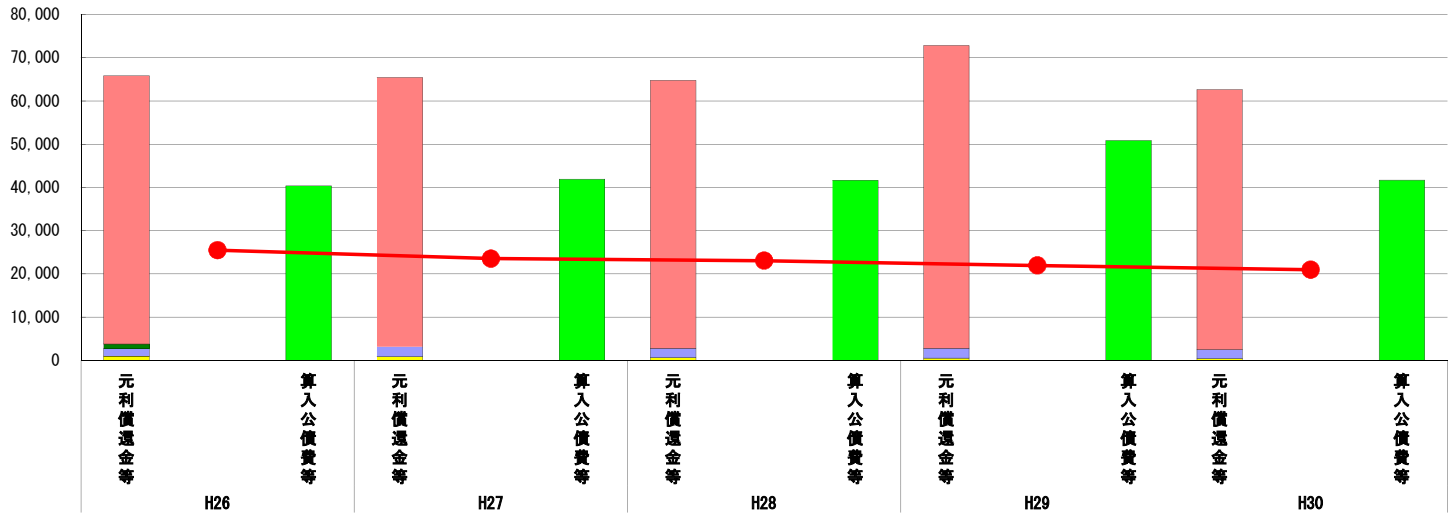
いずれの会計においても実質赤字額は生じていません。
 今後も、一般会計及びその他の会計とも、収入確保及び歳出削減に努めます。
 なお、昨年に比べ黒字額の標準財政規模比が大きく減少していますが、これは黒字額の約6割を占めていた香川県水道用水供給事業会計、香川県工業用水道事業会計及び香川県五色台水道事業会計が県内水道事業の広域化に伴い廃止されたためです。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

平成30年度

香川県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等(A)	元利償還金	62,066	62,262	61,935	70,062	60,172
	減債基金積立不足算定額※	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	969	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	1,835	2,305	2,169	2,244	2,049
	組合等が起した地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額	955	845	627	527	435
算入公債費等(B)	一時借入金の利息	7	6	6	2	4
	算入公債費等	40,354	41,902	41,657	50,869	41,688
(A) - (B)		25,478	23,516	23,080	21,966	20,972

分析欄

平成30年度の元利償還金等は、前年度に比べ、中小企業高度化資金に係る元利償還金の減少（約94億円）などに伴い、減少しています。
また、算入公債費等についても、中小企業高度化資金に係る元利償還金の減少（約94億円）などに伴い減少しています。
元利償還金等から算入公債費等を控除した額が、今回算定対象外となったH27と比べ、元利償還金の減少などにより、約25億円減少した結果、実質公債費比率は低下しました。
今後も、財政運営指針に基づき、一般会計及び全会計の臨時財政対策債を除く県債残高を減少させるとともに、元金プライマリーバランスの黒字化を図り、一般会計及び全会計の県債残高の減少を目指します。

(参考)

		年度				
		H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
※ 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)	-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額	-	-	-	-	-

分析欄

満期一括償還地方債の残高はありません。

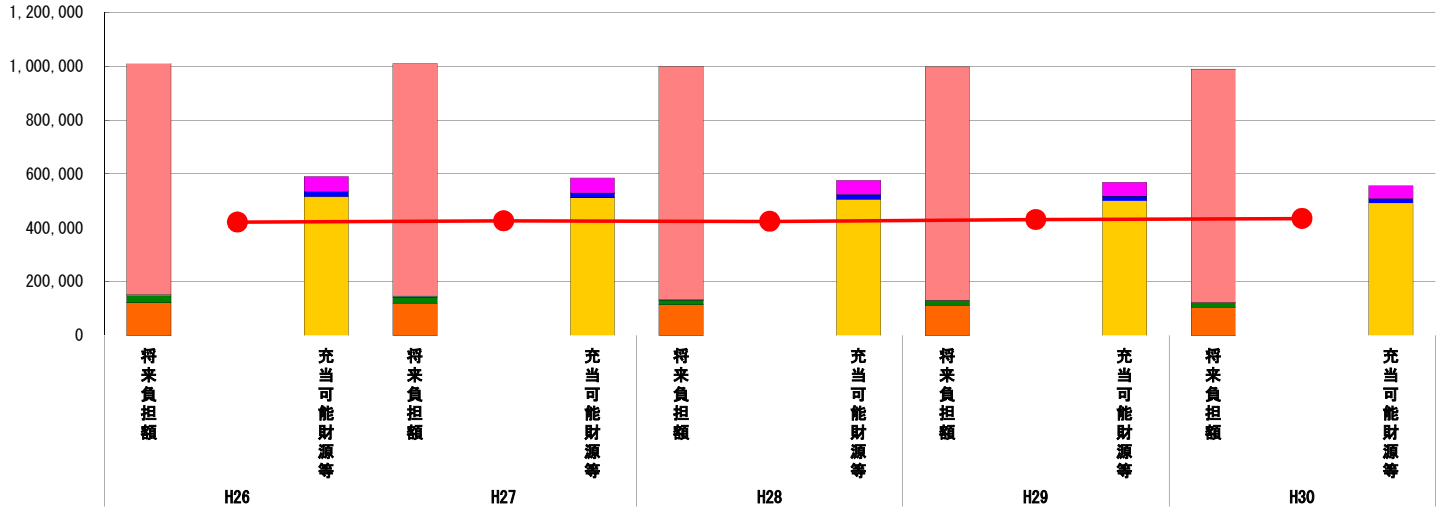
(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

平成30年度

香川県

(百万円)



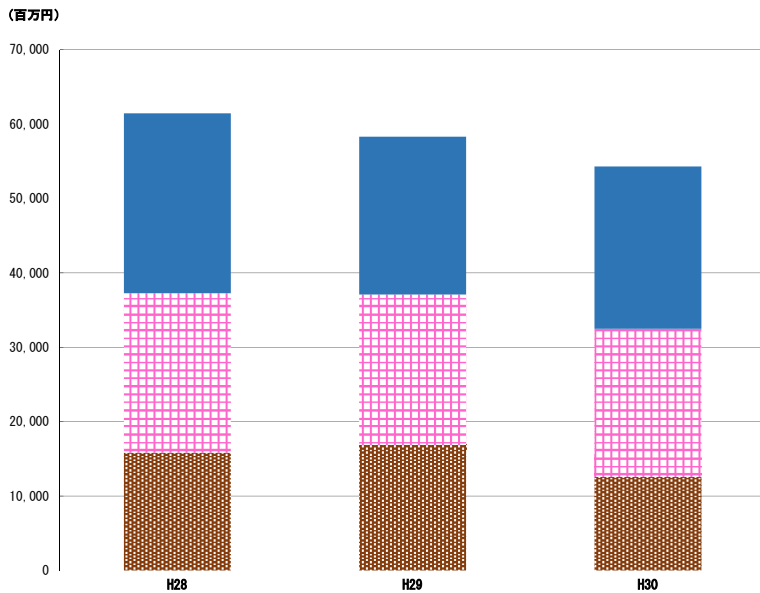
(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		860,469	865,078	867,798	868,743	868,933
	債務負担行為に基づく支出予定額		3,258	2,434	1,819	1,327	1,004
	公営企業債等繰入見込額		26,274	23,828	17,709	17,532	16,939
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		120,899	119,088	113,146	111,298	103,625
	設立法人等の負債額等負担見込額		8	43	77	48	22
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		55,980	55,333	52,886	51,501	47,706
	充当可能特定歳入		18,791	18,366	17,833	17,250	16,702
(A) - (B)	将来負担比率の分子		420,620	425,578	423,785	429,989	434,293

分析欄

将来負担額 (A) については、臨時財政対策債に係る一般会計地方債残高が増加していますが、対象者の減少などによる退職手当負担見込額の減少等に伴い約84億円減少しています。
 充当可能財源等 (B) については、公債費等に係る基準財政需要額算入見込額の減に伴い約127億円減少しています。
 充当可能財源等 (B) の減少額が、将来負担額 (A) の減少額を上回ったことから、将来負担比率の分子 (A) - (B) は、増加しています。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（都道府県）



区分	年度	H28	H29	H30
財政調整基金		15,844	16,859	12,592
減債基金		21,410	20,222	19,901
その他特定目的基金		24,226	21,216	21,806
吉野川総合開発香川用水事業基金		7,434	6,733	6,102
香川県地域医療介護総合確保基金		3,188	3,244	3,824
直島町風評被害対策基金		3,121	3,121	3,122
香川県後期高齢者医療財政安定化基金		1,852	1,853	1,853
香川県社会福祉基金		1,608	1,332	1,336
基金残高合計		61,480	58,298	54,300

平成30年度	香川県
--------	-----

基金全体
(増減理由)
各種の事業遂行の財源とするため、各基金に合計で7,813百万円を積み立てました。
一方、財政調整基金・減債基金をはじめ、吉野川総合開発香川用水事業基金など、各種事業の遂行のため基金を11,811百万円取り崩した結果、基金残高は3,998百万円減少しました。

(今後の方針)
今後の財政見通しにおいて財源不足が見込まれており、その解消のために財政調整基金、減債基金及び特定目的基金を活用する予定です。
決算が黒字となった場合や、財政収支にゆとりがある場合に積み立て、財政需要の集中や財源不足に備えます。

財政調整基金
(増減理由)
平成29年度決算剰余金の2分の1相当額等を2,498百万円積み立てた一方で、各種事業の財源とするため6,765百万円取崩したことにより、残高が4,267百万円減少しました。

(今後の方針)
今後の財政見通しにおいて財源不足が見込まれており、その解消のために基金を活用する予定です。
決算が黒字となった場合や、財政収支にゆとりがある場合に積み立て、財政需要の集中や財源不足に備えます。

減債基金
(増減理由)
平成29年度決算剰余金のうち、財政調整基金への積み立てを行う残額を基に修正予算等で必要となる財源を差し引いた額等を2,448百万円積み立てた一方で、県債償還の財源とするため2,769百万円を取り崩したことにより、残高が321百万円減少しました。

(今後の方針)
地方債の償還計画や一般財源総額を踏まえ、県債償還の財源とするため基金を活用する予定です。
決算が黒字となった場合や、財政収支にゆとりがある場合に積み立て、将来の県債償還に備えます。

その他特定目的基金
(基金の使途)
・吉野川総合開発香川用水事業基金：吉野川総合開発香川用水事業の運営
・香川県地域医療介護総合確保基金：地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律（平成元年法律第64号）第4条第1項に規定する都道府県計画において定める事業の実施

(増減理由)
・吉野川総合開発香川用水事業基金：吉野川総合開発香川用水事業の運営に要する経費の増に伴う取崩し等の結果、残高が631百万円減少しました。
・香川県地域医療介護総合確保基金：地域密着型サービス等整備事業などの事業量に応じて積立て・取崩をした結果、残高が580百万円増加しました。

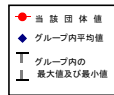
(今後の方針)
・吉野川総合開発香川用水事業基金：今後も吉野川総合開発香川用水事業の運営経費等に応じて適切に管理していきます。
・香川県地域医療介護総合確保基金：地域密着型サービス等整備事業などの事業量に応じて基金を活用していきます。

(12) 都道府県公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

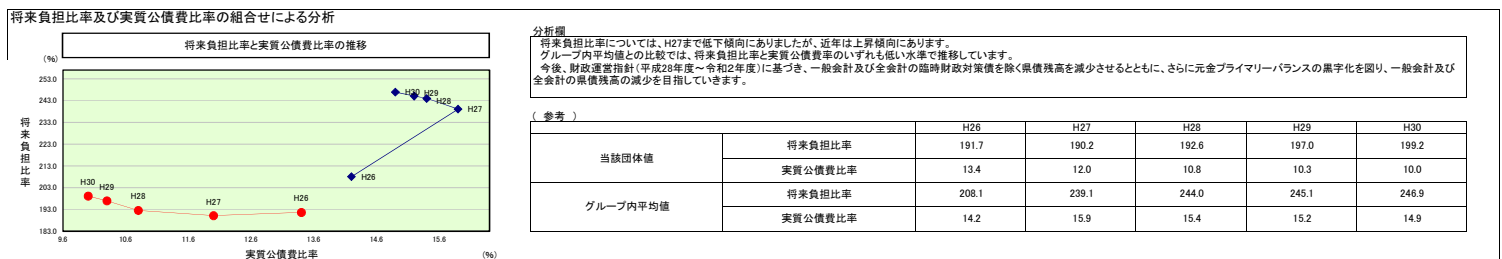
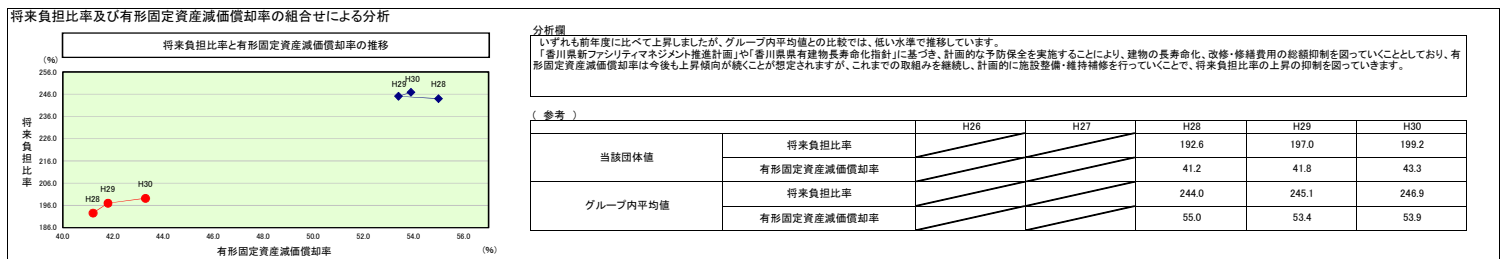
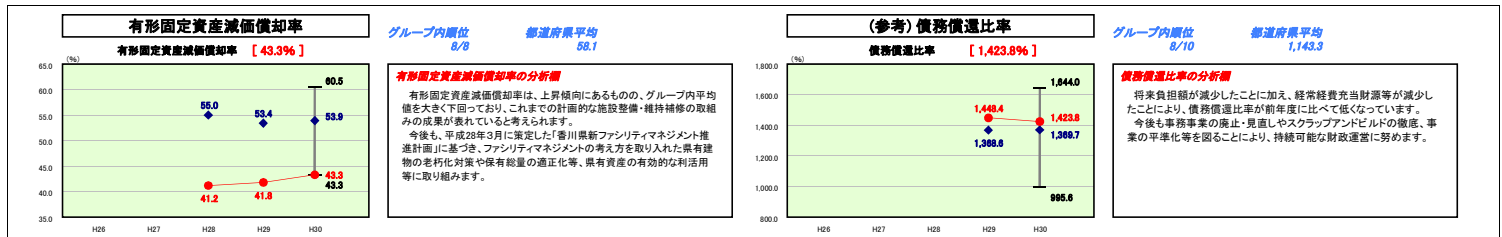
平成30年度

香川県

人口	987,336	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	974,869	人(H31.1.1現在)	運補実質赤字比率	-	%
面積	1,876.78	km ²	実質公債費比率	10.0	%
入総額	443,506,874	千円	将来負担比率	199.2	%
出総額	433,090,842	千円	グループ	H26 C H27 C H28 C	
実質収支	4,358,897	千円	(年度毎)	H29 C H30 C	
標準財政規模	259,125,194	千円			
地方債現在高	868,659,467	千円			



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 (Aグループ 1,000以上, Bグループ 0,500以上1,000未満, Cグループ 0,400以上0,500未満, Dグループ 0,300以上0,400未満, Eグループ 0,300未満)
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



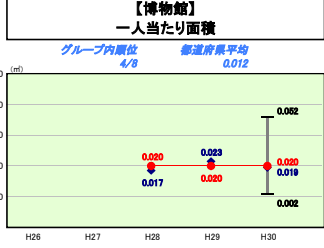
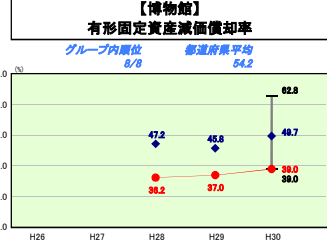
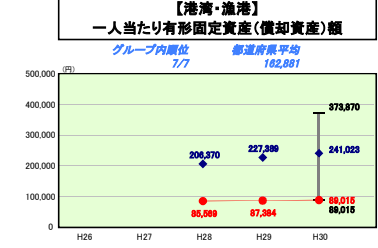
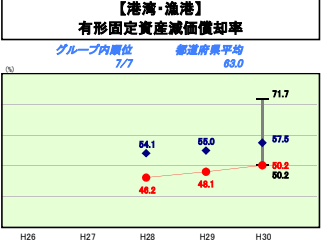
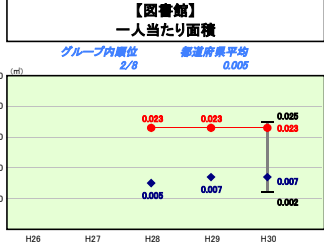
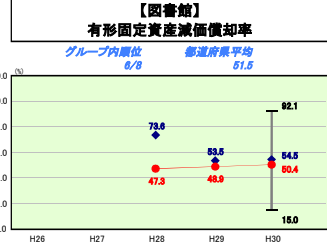
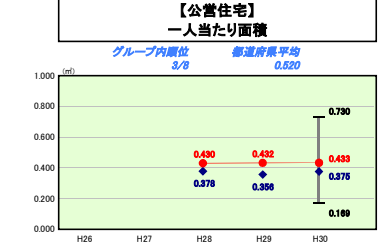
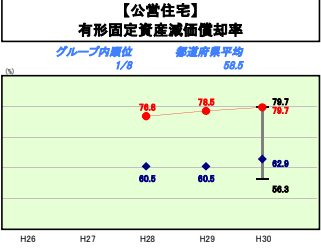
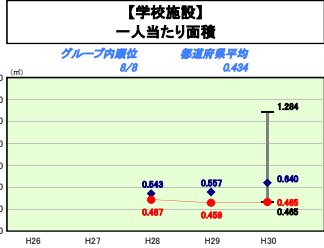
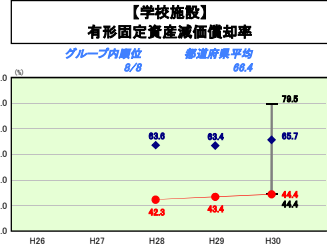
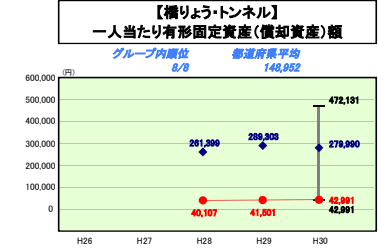
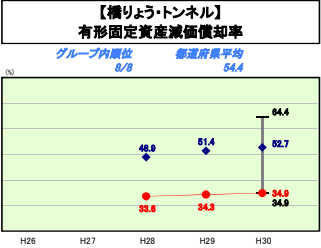
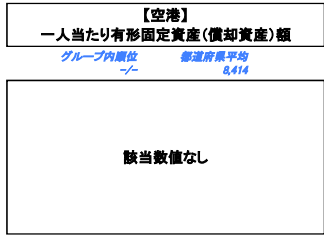
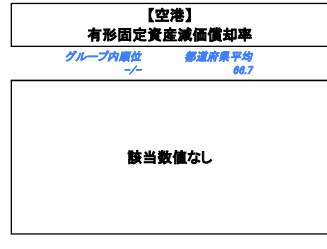
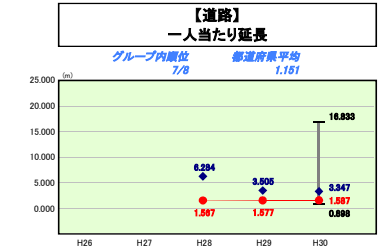
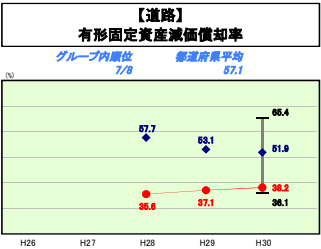
(13)-1都道府県施設類型別ストック情報分析表①

平成30年度 香川県

人口	867,336	人(81.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	874,869	人(81.1.1現在)	運転実質赤字比率	-	%
面積	1,876.78	km ²	実質公債費比率	10.0	%
歳入総額	443,508,074	千円	将来負担比率	199.2	%
歳出総額	433,000,842	千円	グループ	H26 C H27 C H28 C	
実収支	4,358,897	千円	(年度毎)	H29 C H30 C	
標準財政規模	259,125,194	千円			
地方債現在高	868,659,467	千円			



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 (Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満)
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



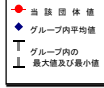
施設情報の分析値
 有形固定資産償却率は、公営住宅でグループ内平均を上回っており、道路、橋りょう・トンネル、港湾・漁港、学校施設、図書館、博物館でグループ内平均を下回っています。
 学校施設については、H28年に高等学校を再編整備したほか、順次、老朽校舎の改築等を実施していることから、有形固定資産償却率がグループ内平均を大きく下回っているほか、規模の適正化も進めているため一人当たり面積も減少しています。
 公営住宅については、昭和40年代から50年代に建設されたものが多く、耐用年数間近のものがあるものの、定期的な維持修繕による機能維持やエレベーター設置などの機能向上に努めており、使用上の問題はありません。
 今後も、平成28年3月に策定した「香川県新ファンシリティマネジメント推進計画」に基づき、ファンシリティマネジメントの考え方を取り入れた県有建物の老朽化対策や保有総量の適正化等、県有資産の有効的な活用等に取り組めます。

(13)-2都道府県施設類型別ストック情報分析表②

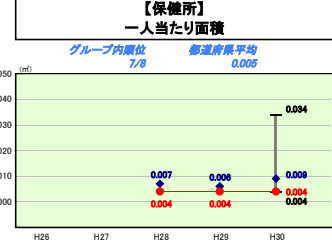
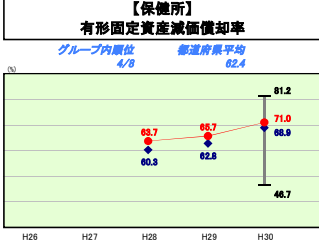
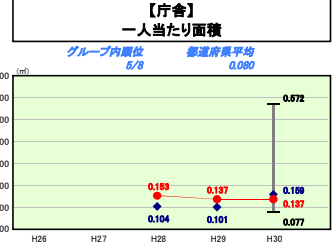
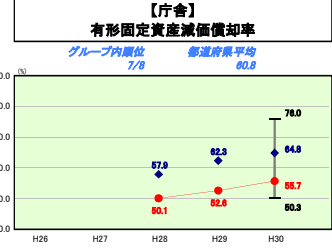
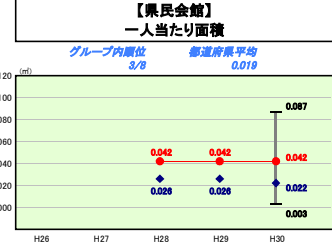
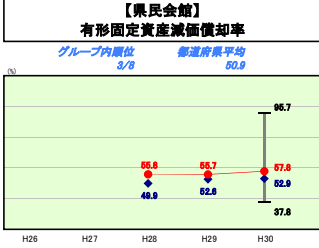
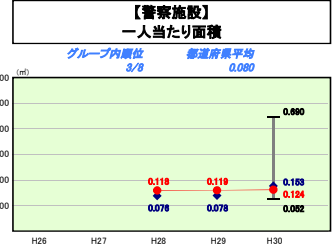
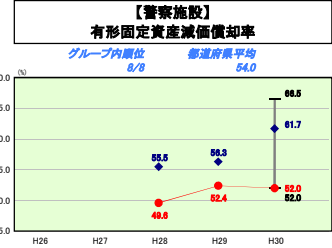
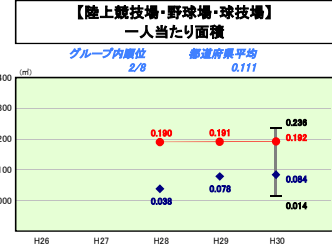
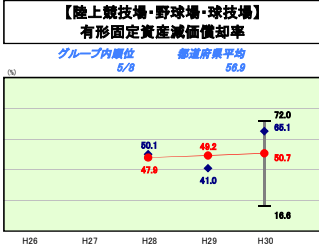
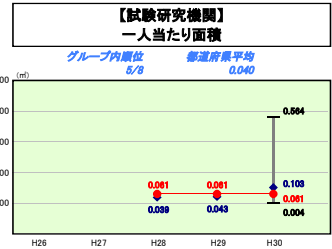
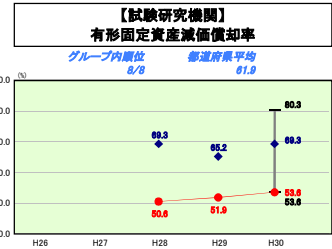
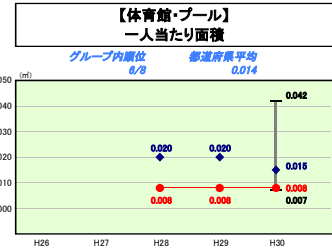
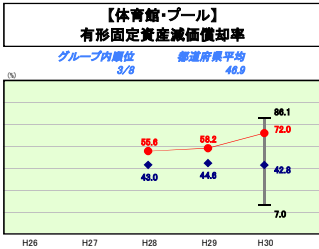
平成30年度

香川県

人口	867,336	人(931.1.1(概数))	実収赤字比率	-	%
うち日本人	874,869	人(931.1.1(概数))	連結実収赤字比率	-	%
面積	1,876.78	km ²	実収公債費比率	10.0	%
歳入総額	443,508,074	千円	将来負担比率	199.2	%
歳出総額	433,000,842	千円	グループ	H26 C H27 C H28 C	
実収支	4,358,897	千円	(年度毎)	H29 C H30 C	
標準財政規模	259,126,194	千円			
地方債現在高	868,659,467	千円			



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 (Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満)
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



施設情報の分析値

有形固定資産償却率は、体育館・プール、県民会館、保健所でグループ内平均を上回っており、陸上競技場・野球場・球技場、試験研究機関、警察施設、庁舎でグループ内平均を下回っています。
 体育館・プールについては、1人当たり面積はグループ内平均を下回っています。
 庁舎については、有形固定資産償却率はグループ内平均を下回っており、今後も、長寿命化を図ることで既存ストックの有効活用を図っています。
 今後も、平成28年3月に策定した「香川県新ファシリティマネジメント推進計画」に基づき、ファシリティマネジメントの考え方を取り入れた県有建物の老朽化対策や保有総量の適正化等、県有資産の有効的な活用等に取り組みます。